

(20)

第三問題

初期作戰ノ實績ハ豫定計畫ニ對比シ軍事的政治的
經濟的ニ如何ナル差異アリシヤ

昭和十七年三月十一日
連絡會議決定

20部ノ内第5號

S 1.7.0.0 - 52

276

S 1.7.0.0 - 52 275

艦艇	戰艦	航空母艦	甲級巡洋艦	乙級巡洋艦	驅逐艦	潛水艦	砲艦	波設艦	特務艦	掃海艇	魚雷艇	飛行機
米	五	水上機母艦 三	四	四	八	四	七	四	二	四	九	一〇五隻
英	二			二	一〇	四		一				六〇萬噸
蘭				四	四							九一隻
大					六			三				三〇萬噸
中	四		八		一五	六	二		二			同上合計一五三七
破					五							自爆及未歸還一二二
英												調查中
蘭												沈没二七
我方ノ被害			小破一 (修理完成)	小破一 (修理完成)	沈没四 中破一	沈没四 中破一	沈没四 中破一	沈没一	沈没一	沈没三 大破一		

大本營發來 昭和十七年三月七日午後三時三十分
開戰以來三月七日迄ニ判明セル帝國海軍ノ綜合戰果左ノ通

初期作戰ノ實績ハ豫定計畫ニ對比シ軍事的經濟的
政治的ニ如何ナル差異アリシヤ

第一、軍事

一、對米英蘭

初期作戰ニ於テ陸海軍共ニ豫期以上ノ大戦果ヲ收メタル結果差シ當
リ米英ヲシテ守勢ニ墜セシメ我國土ノ防衛、主要交通線ノ確保等ニ
關シ有利ナル情勢トナリタル外現戰勢ヲ活用セハ長期戰完遂ノ爲メ
從來ハ守勢的戰略態勢ヲ採ルノ已ムナキヲ豫期セシメタルニ反シ今
ヤ攻勢的戰略態勢ニ轉シ得ルノ機運トナレリ

任事ハ
今ハ
此ハ
此ハ

說明

(1) 陸軍作戰ハ比島方面ニ於テ若干遲滯ヲ見アルノ外全般ニ約一ヶ月ノ
作戰期間ヲ短縮進展セシメタリ尙我カ兵力ノ損耗ニ於テモ豫想外ニ

輕微ナリ

殊ニ南方作戰ノ一段落後ニ豫想セシ「ビルマ」作戰ハ南方ニ於テ早
期ニ得タル余力ニ依リ既ニ之ヲ開始シ得ルニ至リタリ

(2) 海軍作戰ハ緒戰ニ於テ太平洋方面所在ノ米英艦隊ノ主力ニ對シ大打
撃ヲ加ヘタル外在東洋敵海上兵力ヲ殆ント擊滅シタルニ對シ我カ兵
力ノ損耗ハ豫期以上ニ僅少ニシテ太平洋並ニ印度洋方面ニ於ケル彼
我ノ兵力關係ハ當分ノ間攻守互ニ其ノ所ヲ變シ得ルニ至リタリ

ヲ利用シ大規模攻勢ヲ企圖シ得ヘシ

(3) 陸海軍航空作戰モ亦我カ損耗比較的僅少且多大ノ敵航空兵力ヲ擊破
シ豫期以上ノ戦果ヲ收メツツアルヲ以テ今後太平洋及印度洋方面ニ

カ型機ノ為ニテハ...
於ケル敵大航空兵力ノ展開ヲ封シ得ルニ於テハ敵航空兵力ノ急増
勢ニ對處シ得ル情勢トナレリ

特ニ緒戰ニ於テ敵軍ニ與ヘタル心的打撃ハ甚大ナルヘシ

二、對重慶

重慶側ニ對シテハ初期作戰ノ大戦果就中豫期以上ニ迅速ナル「ビルマ
ルート」ノ遮斷ニ依リ其ノ抗戦力ニ相當ノ影響ヲ與フヘキヲ豫想セシ
ムルニ至レリ

三、對「ソ」聯

我カ初期作戰ノ大戦果ハ北邊防衛ノ措置ト相俟テ今日迄ノ處日「ソ」
關係ノ靜謐維持ヲ容易ナラシメツツアリ

四、對獨伊

初期作戰ノ大戦果カ獨伊ニ與ヘタル心的影響ハ極メテ大ナルモノアリ
我カ印度洋方面作戰ト相俟テ樞軸側ノ作戰ニ活ヲ入レタル效果ハ豫期
以上ナリ

死傷ノ数

陸軍 (戦死 5000) (重傷 10000) (軽傷 10000) (コヤハラ隊ノ)

海軍 (戦死 1000) (重傷 2000) (軽傷 3000)

飛行機 (戦死 10) (重傷 20) (軽傷 30)

第二 政治

帝國ヲ中心トスル現下ノ世界政治情勢ヲ開戦前ノ豫想ト比較スルニ概不當初期待セル推移ト些シタル相異ナキニ其大體ハ以上帝國ニトシテ有利ニ展開シ居レリ

説明

一 對米英

米英ハ戰戰ニ於テ意外ザル惨敗ヲ喫シタル爲メ相當狼狽セルニ疑ナク特ニ英政府ハ苦境ニ陥リタル模様ニテ輿論ノ糾弾ヲ蒙リ改造ニ次タ改造ヲ以テスルノ已ムナキ状態ニアリ米國ニ於テモ亦政府ニ對シ豫テ内燃シ居リタル不滿ノ表面化スルモノ散見シ始メタルカ米英兩國共猶最後ノ勝利ヲ期待シ戰意動搖スルニ

S 1.7.0.0 - 52

281

五 ラス

二 對重慶

重慶政權ノ抗戰意識未タ衰退セズ重慶僑統一戰線ノ分裂ノ期ヲ容易ニラスト認メラルニ

尙蔣ハ印度ト所謂反侵略戰線ノ結成ニ腐心シ居ル處其今後ノ發展ハ注意ニ値ヌヘシ

三 對「ソ」聯

「ソ」聯ハ西方ニ多事ナルノミナラス我カ施策ト相俟チ初期作戰ノ進捗極メテ順調ナリシ爲容易ニ米英ノ使暎ニ乘セラレヌ反日軍事同盟締結乃至對米英軍事基地提供等モ之ヲ差控ヘ居リテ今日迄ノ所日「ソ」關係ハ我カ方ニ有利ニ推移シ居ルニシテ

S 1.7.0.0 - 52

282

都合ナル情勢ヲ展開シ居ル

四 對獨伊

獨伊トノ關係ハ對米宣戰、單獨不講和取極及軍事協定ノ締結等
何レモ何等ノ困難ゾク豫期以上ノ約諾ヲ爲サシメ得タル外日獨
間ニハ目下經濟提携ノ具體的商議進行中ナル等日獨伊三國ノ協
力關係ハ逐日強化セラレツツアリ特ニ帝國ノ緒戰ニ於ケル大戦
果ハ獨伊^{イタリヤ}ノ^{イタリヤ}聯軍ヲ振起セシムルノ效果大ナルモノアリタリ

五 其他

泰及佛印ニ對スル我方軍事的政治的經濟的施策ハ豫期以上順調
ニ進展シ其結果我方ノ南方經路ヲ容易ナラシメタリ
南米ニ於テハ緒戰ノ大戦果ト我方施策ト相俟チ米國ノ執拗極

6 1.7.0.0 - 52 283

ル壓迫ニモ拘ラス亞智兩國ハ依然實質的中立ヲ維持シ居リ今日
迄ノ所我方トシテハ豫期以上ノ成果ヲ收メツツアリ

6 1.7.0.0 - 52 283-1

秘

31

第三 經濟

緒戦ノ大戦果ニ依リ

一 既定計畫ノ地域ニ於ケル資源ノ確保並ニ米英ニ對スル重要物資ノ供給遮斷ヲ早期ニ達成シ得タリ

二 海上輸送力ハ概ネ豫定ノ状態ヲ維持シ在リ

三 物資取得特ニ石油取得ニ付テハ豫定ニ比シ極メテ良好ナル成果ヲ擧ゲ得ル見込確實ナリ

右ニ依リ一般ニ物的戦争遂行力ハ豫定以上ノ強化ヲ豫想セラレルト雖モ食糧確保ニ付テハ尙考慮ヲ要スル情況ニ在リ

(三月十一日)



説明

第一 船舶輸送力

船腹量算定ニ關スル各要素ニ付テハ多少ノ異動アルモ全体的ニハ概ネ既定計畫通りナリ
即チ拿捕船ノ減、徴備船及修繕船ノ増等ハ外國備船ノ増、喪失大破(〇船)ノ減等ニ依リ相殺セラレ今後ノ引揚船ハ其ノママ船腹量ノ増加トナルヘシ(第十三問題資料参照)

第二 鋼材

- 一 既定計畫(十一月五日御前會議ニ於ケル企畫院總裁説明)
- 一 十六年度鋼材生産量ハ計畫量四七六万瓩ニ對シ四五〇万瓩トス
- 二 十七年度ニ於テハ南方作戰期間ハ年換算三八〇万瓩程度ニ低下ス
- 三 現狀ニ基ク見込

- 一 十六年度鋼材生産量四六五万瓩ニシテ既定計畫ニ比シ一五万瓩増ナリ
- 二 十七年度ニ於テハ船舶輸送力ヲ既定計畫通りトシテ屑鐵回收強化貯積ノ使用増加等ニヨリ五〇〇万瓩ノ生産ヲ確保シ得ヘキ見込ナリ

第三米

十七米穀年度ノ當初需給計畫ハ

内地	臺灣ヨリ	朝鮮ヨリ	泰ヨリ	佛印ヨリ	計
	約 三一〇	約 六二八	約 三〇〇	約 七〇〇	約 七八五
十六年度ヨリノ持越					七〇七
十八年度ヘノ持越					六〇〇
ト確定セル處					

本計畫ハ一應確定スルモ
初期作戰中ノ実績ニ
徴ルニ船腹及荷役能
力ノ關係ニ實現困難

三 泰佛印ヨリノ分ハ十六年十一月以降十七年二月末日迄初期作戰中僅カ二一〇〇万石ヲ輸入シ得タルニ止リシト共ニ内地米及臺灣米ノ生産減並代用食等ノ供給減ニ因リ需給關係逼迫スルニ至

8 1.7.0.0 - 52

287

リ左ノ如ク修正

需給計畫(第十二問題ニ於テ決定)ヲ確定セリ

内地	朝鮮ヨリ	臺灣ヨリ	佛印ヨリ	ヒルマ	計
	七〇〇	二一五	九九四		七四五五

トシ泰佛印ヨリノ分ハ現地荷役能力ノ限度ヲ考慮シ定メタルモノニシテ今後之カ輸送ヲ確保スルト共ニ止ムヲ得サルトキハ十八米穀年度ヘノ決定持越六〇〇万石ヲ減少セシムルコトニ依リ
緊急處置スルヲ要スルニ至レリ
尚十七年十一月以降十八年三月迄ノ外米輸入決定数量ハ四八万石トス

8 1.7.0.0 - 52

288

第四 南方地域ヨリノ取得可能物資（石油ヲ除ク）
 既定計畫（第六委員會決定ニ依ル十七年度取得目標）ヲ概ネ達
 成シ得ヘシ（第八問題参照）

第五 石油

(一) 南方地域ヨリノ取得見込量

（十一月五日御前會議ニ於ケル企畫院總裁説明）

	第一年	第二年	第三年
ボルネオ	三〇万軒	一〇〇万軒	二五〇万軒
スマトラ			
南部	一	七五	一四〇
北部	一	二五	六〇
合計	三〇	二〇〇	四五〇

B 1.7.0.0 - 52

289

(二) 之ニ對シ十七年度取得見込量

英領ボルネオ	七〇万軒
タラカン地域	二五
サンガサング地域	三〇〇
スマトラ	二五〇
計	七〇〇

柿ノ包目下ノ地帯ヲラ地域ヨリ約七〇万軒ヲ見込ムトキハ
 約一六五万軒ノ増加トナル

B 1.7.0.0 - 52

290